

令和6年度

宮崎県における地域日本語教育の体制整備に係る実態調査

報告書

令和7年3月

宮崎県 商工観光労働部 観光経済交流局

国際・経済交流課

目次

1 調査概要	3
(1) 調査目的	
(2) 調査対象	
(3) 調査期間	
(4) 調査方法	
(5) 回収状況	
(6) 調査結果の表示方法	
2 調査結果の概要	5
(1) 外国人住民	5
(2) 事業所	6
3 調査結果	7
(1) 外国人住民	7
(2) 事業所	21

1 調査概要

(1) 調査目的

宮崎県では地域日本語教育によって「外国人住民と日本人住民が、日本語で円滑に意思疎通できるようになることにより、県内のどこに住んでいても、国籍に関係なく安心して生活ができる宮崎県」を目指している。今後の施策を検討するにあたり、宮崎県における日本語教育の現状や、外国人住民等の日本語教育に係る課題及びニーズ等を把握するため、外国人住民及び事業所を対象に調査を実施する。

(2) 調査対象

ア 外国人住民

県内市町村が住民基本台帳から無作為抽出した、令和6年6月1日時点で18歳以上の外国人住民3,000人

イ 事業所

総務省の「事業所母集団データベース」（令和4年次フレーム）上の県内事業所から、産業構成比に従い無作為抽出した1,165社

(3) 調査期間

ア 外国人住民 令和6年10月9日から令和6年11月30日まで

イ 事業所 令和6年10月27日から令和6年11月30日まで

(4) 調査方法

調査票により調査（郵送、Google フォーム）

(5) 回収状況

調査対象	調査数	回答数	回答率
外国人住民	3,000	543	18.1%
事業所	1,165	318	27.3%

(6) 調査結果の表示方法

- ・設問ごとの集計母数は、グラフ中に「N=***」と表記する。
- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第1位を四捨五入して算出する。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ・自由記述回答において、同じ回答が複数得られた場合は件数を記載する。
- ・得られた記述回答は、必要に応じて翻訳、文体や用語の統一、誤字及び脱字の

修正等を行う。

2 調査結果の概要

(1) 外国人住民

日本語能力試験に合格したレベルを尋ねたところ、試験を受けたことがない人が26%と最も多く、次いでN4（基本的な日本語を理解することができる）が21%、N5（基本的な日本語をある程度理解することができる）が15%となっており、日常会話レベルの日本語能力を身に付けるための日本語教育を必要としていると考えられる外国人住民が多く県内に在住していることが分かった。また、N4・N5レベルの人の85%は、在留資格が技能実習又は特定技能であり、平日日中は就労している人々であった。

日本語の学習方法としては、独学（インターネット、アプリ、教科書、テレビ等）が多い一方、無料で学ぶ場や日本語の先生から学ぶ機会があれば学びたいという回答が多くあった。また、日本語を学びたい時間としては、特に技能実習・特定技能といった就労中の外国人住民を中心に、夜間を希望する人が多いことが分かり、日本語を学ぶことができる時間に受講できる教室がないことを理由に、独学で学んでいる人が一定数いることが推測される。行政に求める支援として最も多かったのも、「日常会話レベルの日本語を学ぶ機会の充実」であった。

また、地域住民との交流については、地域との関わり、地域住民との交流で良かったと感じたこと・困っていることのいずれも「特になし」との回答が最も多く、日本人住民との交流の機会が少ないことが窺えた。

そのため、夜間の学習を希望する外国人住民も生活に必要な日本語を学ぶことができる環境づくり、ニーズに合った学習の場や学習方法の検討を進めるとともに、日本人住民との交流促進として、学んだ日本語を活用できる交流の場の提供や、日本人住民の「やさしい日本語」の活用促進に取り組む必要がある。

外国人住民の課題

- 日本語を学ぶことができる時間に受講できる教室がないことを理由に、独学で学んでいる人が一定数いると考えられる
- 日本人住民との交流の機会が少ない

外国人住民のニーズ

- 無料で学ぶ場があれば学びたい
 - 日本語教室が近くにあれば学びたい
 - 日本語の先生から学ぶ機会があれば学びたい
 - 日本語教室と時間が合えば学びたい
- 平日夜間、土曜日夜間、日曜日・祝日夜間

(2) 事業所

市町村等が開催する日本語教室等があれば外国人材を受講させたいと考えている事業所が82%と大半を占めていた。その背景として、外国人材を受け入れるにあたっては日常会話ができるレベルの日本語能力や社員とのコミュニケーションに課題を感じており、外国人材に対する生活支援では通訳・翻訳を要する場面で困っているという状況があることが分かった。

そのため、就労している外国人住民が生活に必要な日本語を学習するにあたっての支援の強化や、外国人材を受け入れている事業所への日本語教育に関する情報共有の強化と合わせ、外国人材を受け入れている事業所での日本人社員の「やさしい日本語」の活用促進に取り組む必要がある。

外国人材受入事業所の課題

- 日常会話レベルの日本語能力や、社員とのコミュニケーションに課題を感じている

外国人材受入事業所のニーズ

- 無料なら受講させたい
- 教室が近くにあれば受講させたい
- 生活上のルールを学ぶことができるなら受講させたい

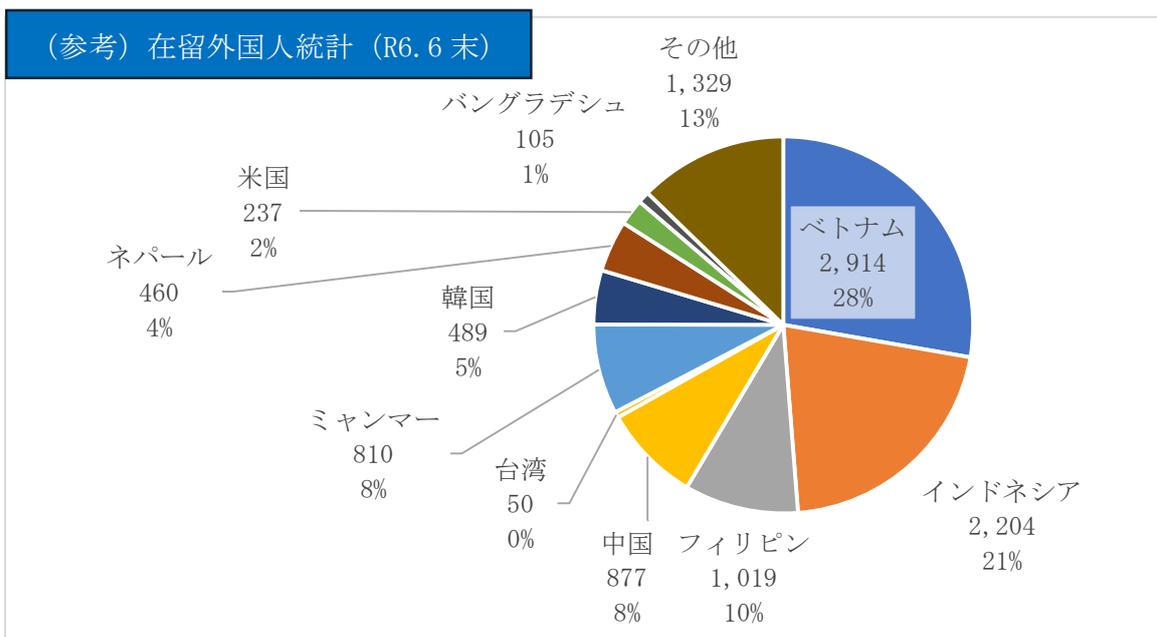
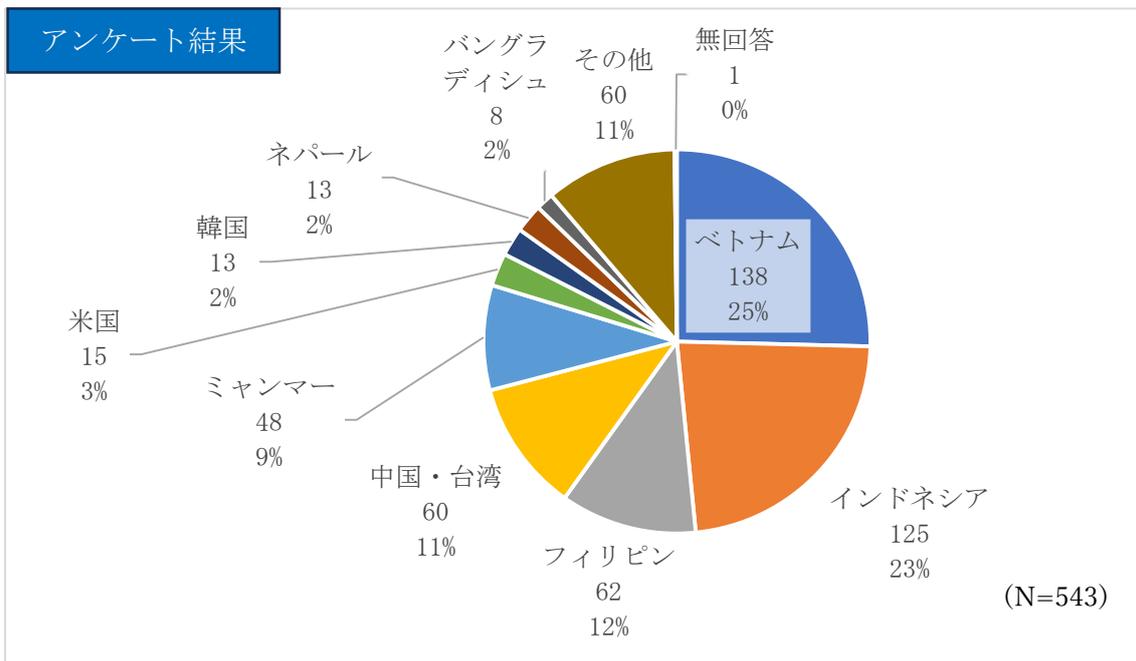
3 調査結果

(1) 外国人住民

基本情報

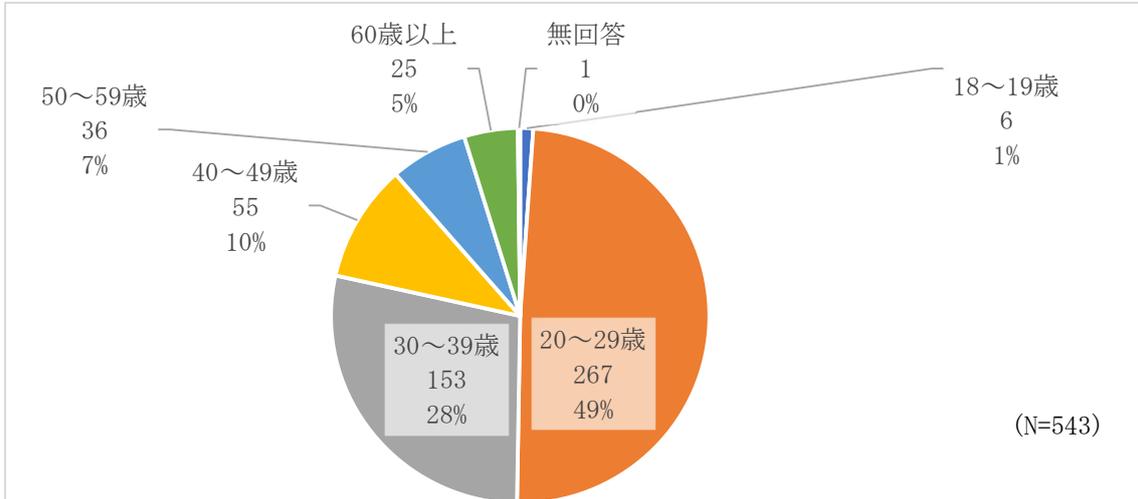
問1 国籍（地域）

「ベトナム」(138件)が最も多く、次いで「インドネシア」(125件)、「フィリピン」(62件)となっている。なお、下記の円グラフのとおり、令和6年6月末時点の在留外国人統計による本県の在留外国人の国籍・地域別の割合に類似した結果となった。



問2 年齢

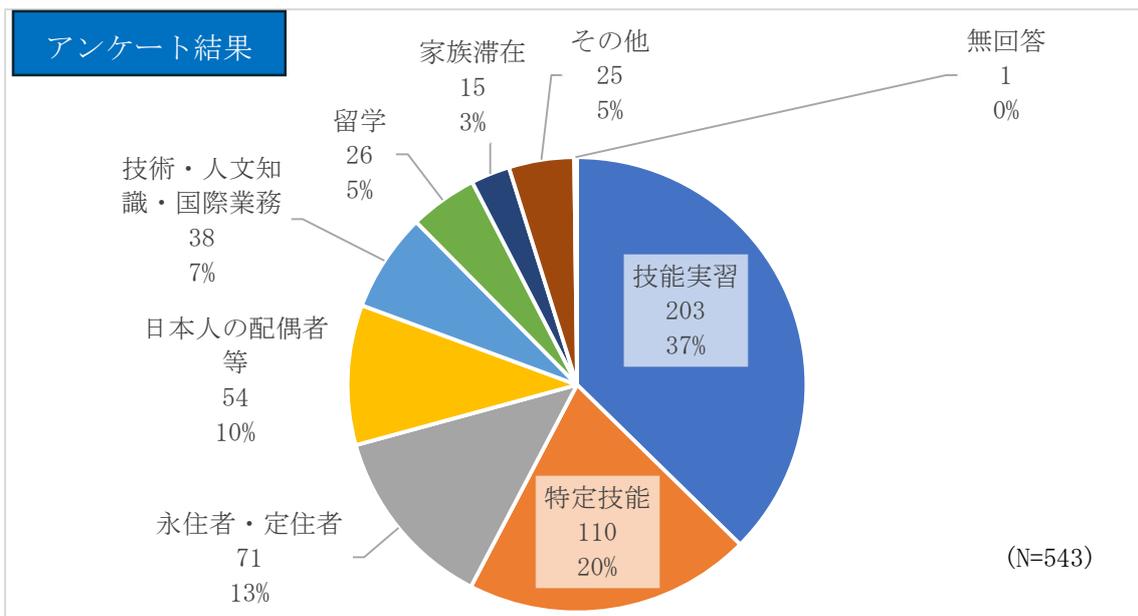
「20～29歳」(267件)が最も多く、次いで「30～39歳」(153件)、「40～49歳」(55件)となっている。



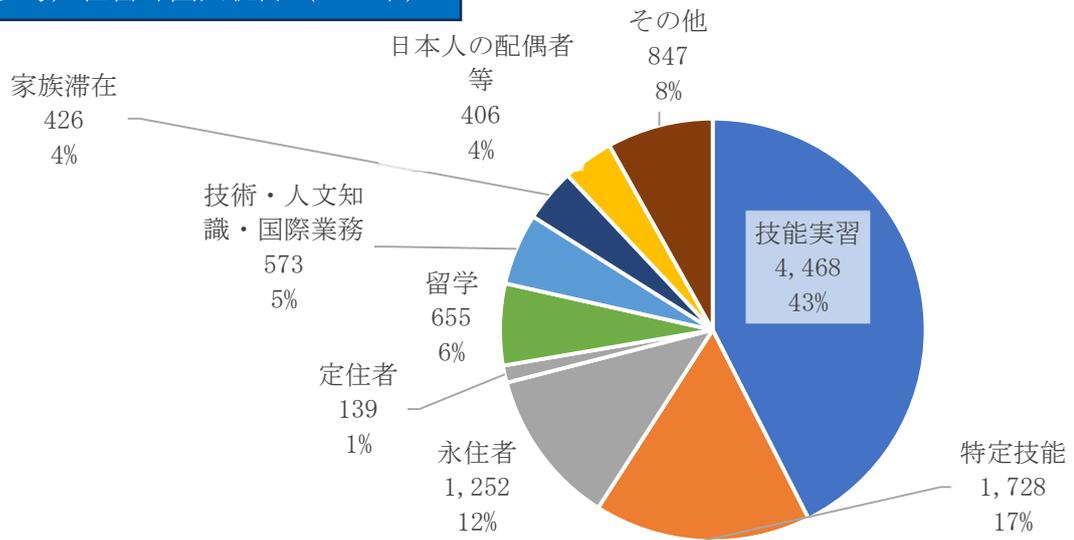
問3 在留資格

「技能実習」(203件)が最も多く、次いで「特定技能」(110件)、「永住者・定住者」(71件)となっている。なお、下記の円グラフのとおり、令和6年6月末時点の在留外国人統計による本県の在留外国人の在留資格別の割合に類似した結果となった。

また、「その他」自由記述には、下記の回答を得た。



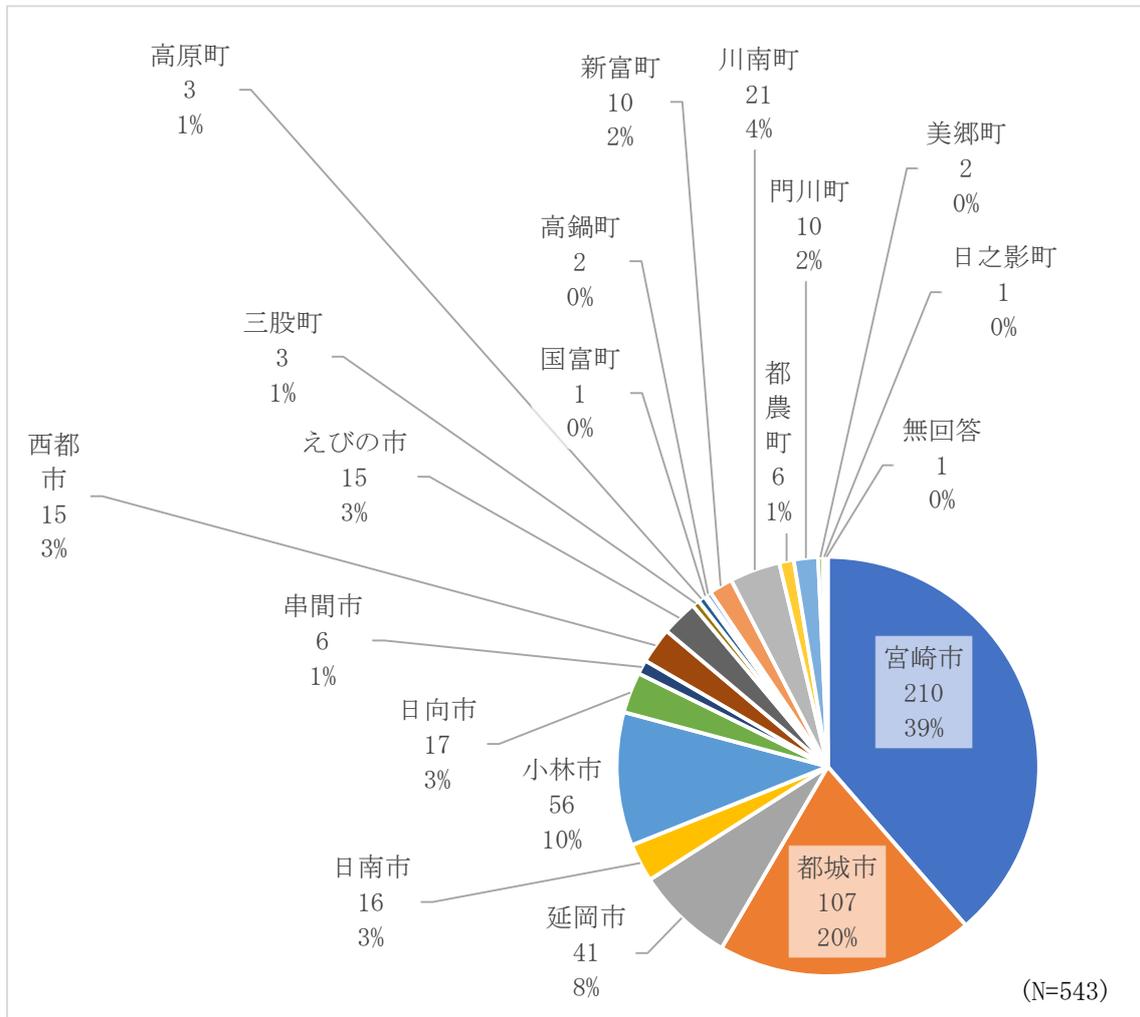
(参考) 在留外国人統計 (R6. 6末)



問3の「その他」自由記述	件数
インターンシップ (同名の在留資格なし)	4
特定活動	2
経営・管理	2
実習生 (技能実習のことか)	2
介護	1
教授	1
高度専門職1号	1
教育	1
宗教	1
家族滞在	1
研修	1
見習い (同名の在留資格なし)	1
専業主婦 (同名の在留資格なし)	1
仕事 (同名の在留資格なし)	1

問4 現在住んでいる市町村

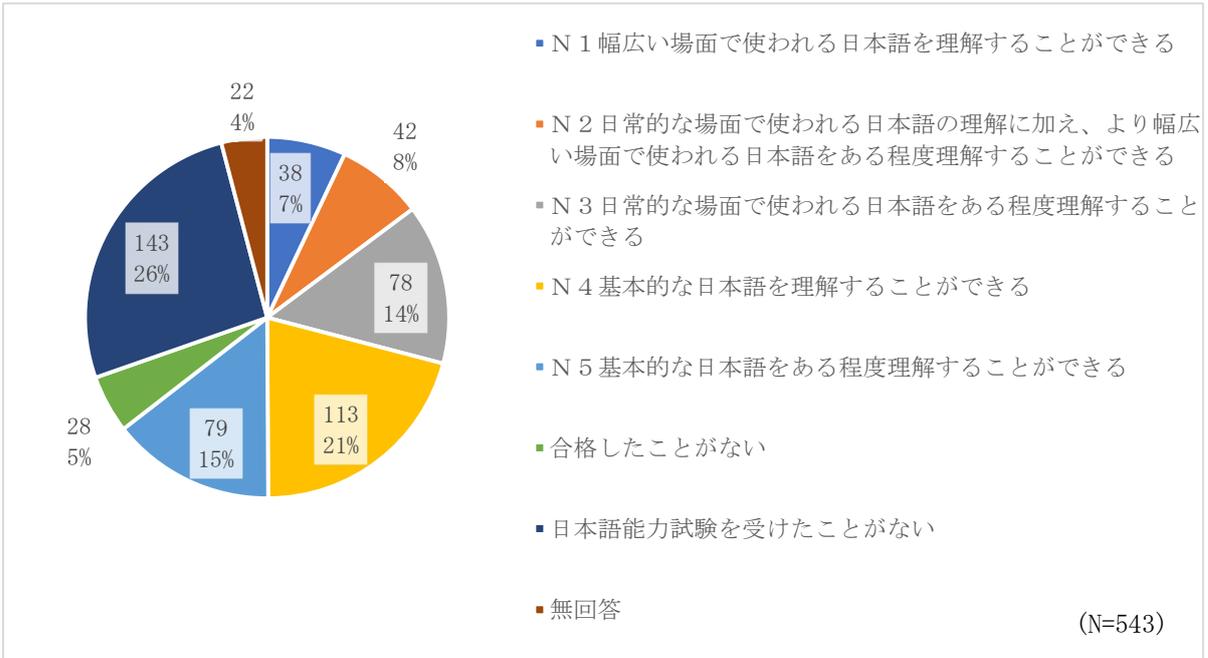
「宮崎市」(210件)が最も多く、次いで「都城市」(107件)、「小林市」(56件)となっている。



日本語について

問5 日本語能力試験に合格したレベルを教えてください

「日本語能力試験を受けたことがない」(143件)が最も多く、次いで「N4 基本的な日本語を理解することができる」(113件)、「N5 基本的な日本語をある程度理解することができる」(79件)となっている。

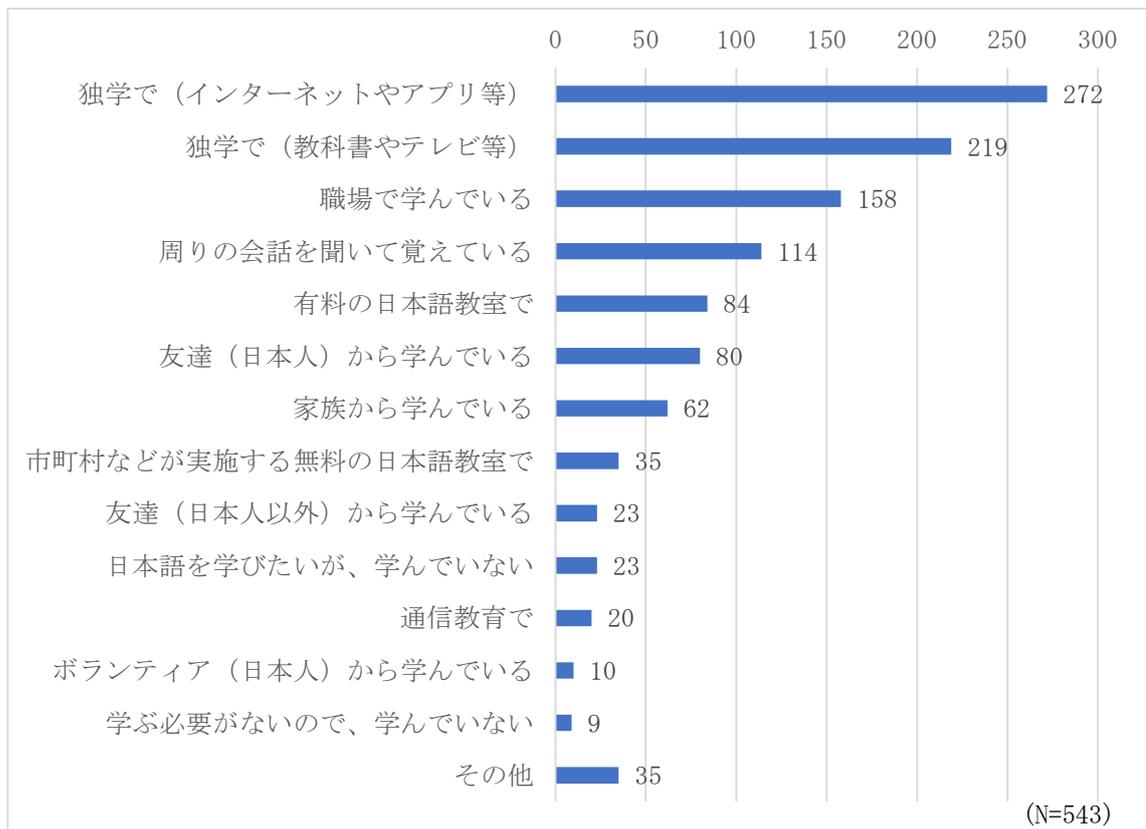


	総数	技能 実習	特定 技能	永住者・ 定住者	日本人 の配偶 者等	家族 滞在	留学	技術・人 文知識・ 国際業務	その 他・無 回答
総数	543	203	110	71	54	15	26	38	26
N1 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる	38	2	3	14	3	0	3	7	6
N2 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる	42	4	8	6	4	1	6	10	3
N3 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる	78	28	21	6	6	0	4	12	1
N4 基本的な日本語を理解することができる	113	55	38	2	4	2	6	1	5
N5 基本的な日本語をある程度理解することができる	79	59	11	3	2	0	1	0	3
合格したことがない	28	6	6	3	4	1	1	4	3
日本語能力試験を受けたことがない	143	43	21	31	27	9	5	3	4
無回答	22	6	2	6	4	2	0	1	1

問6 どうやって日本語を学んでいますか（複数回答可）

「独学で（インターネットやアプリ等）」（272件）が最も多く、次いで「独学で（教科書やテレビ等）」（219件）、「職場で学んでいる」（158件）となっている。

また、「その他」自由記述には、下記の回答を得た。

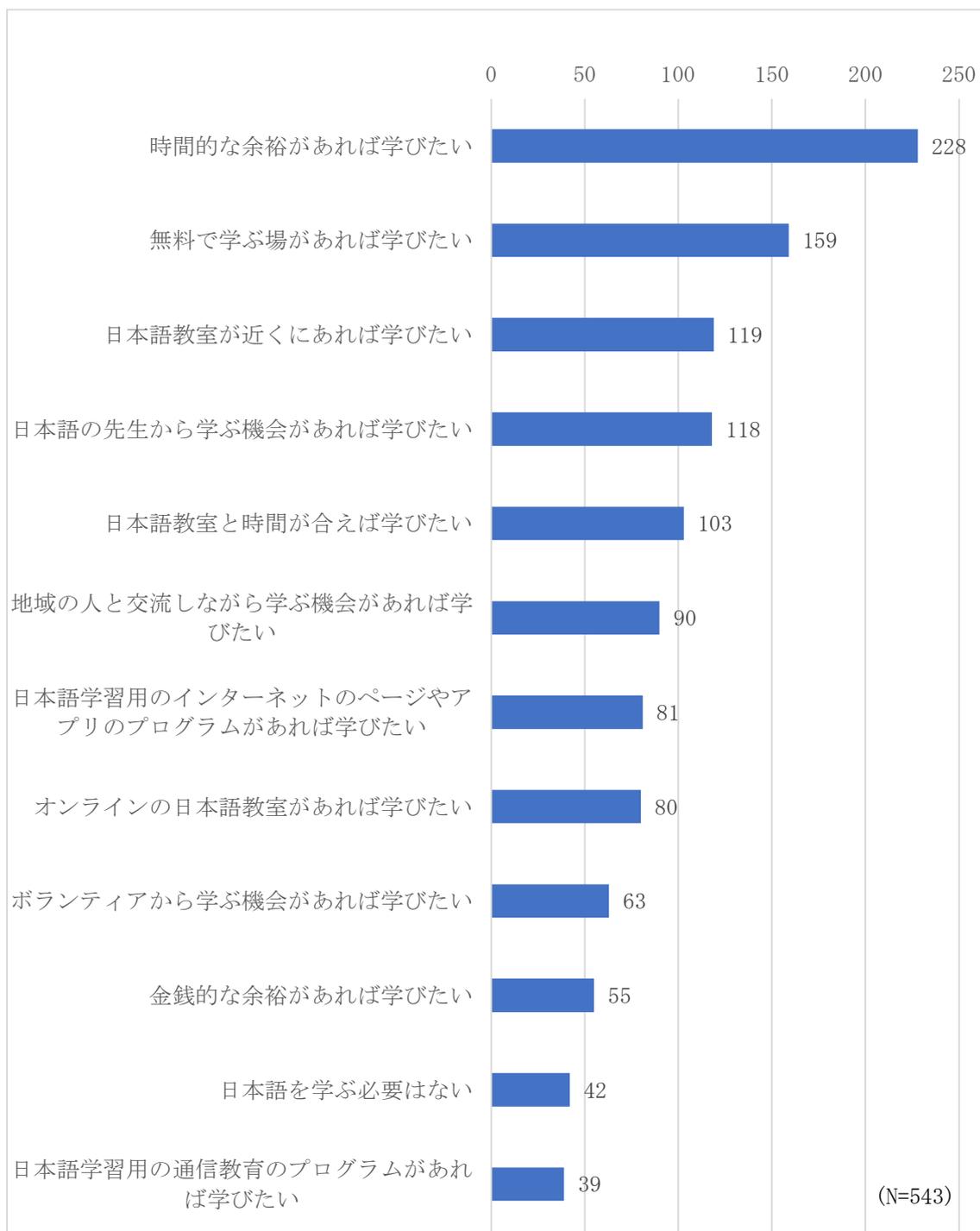


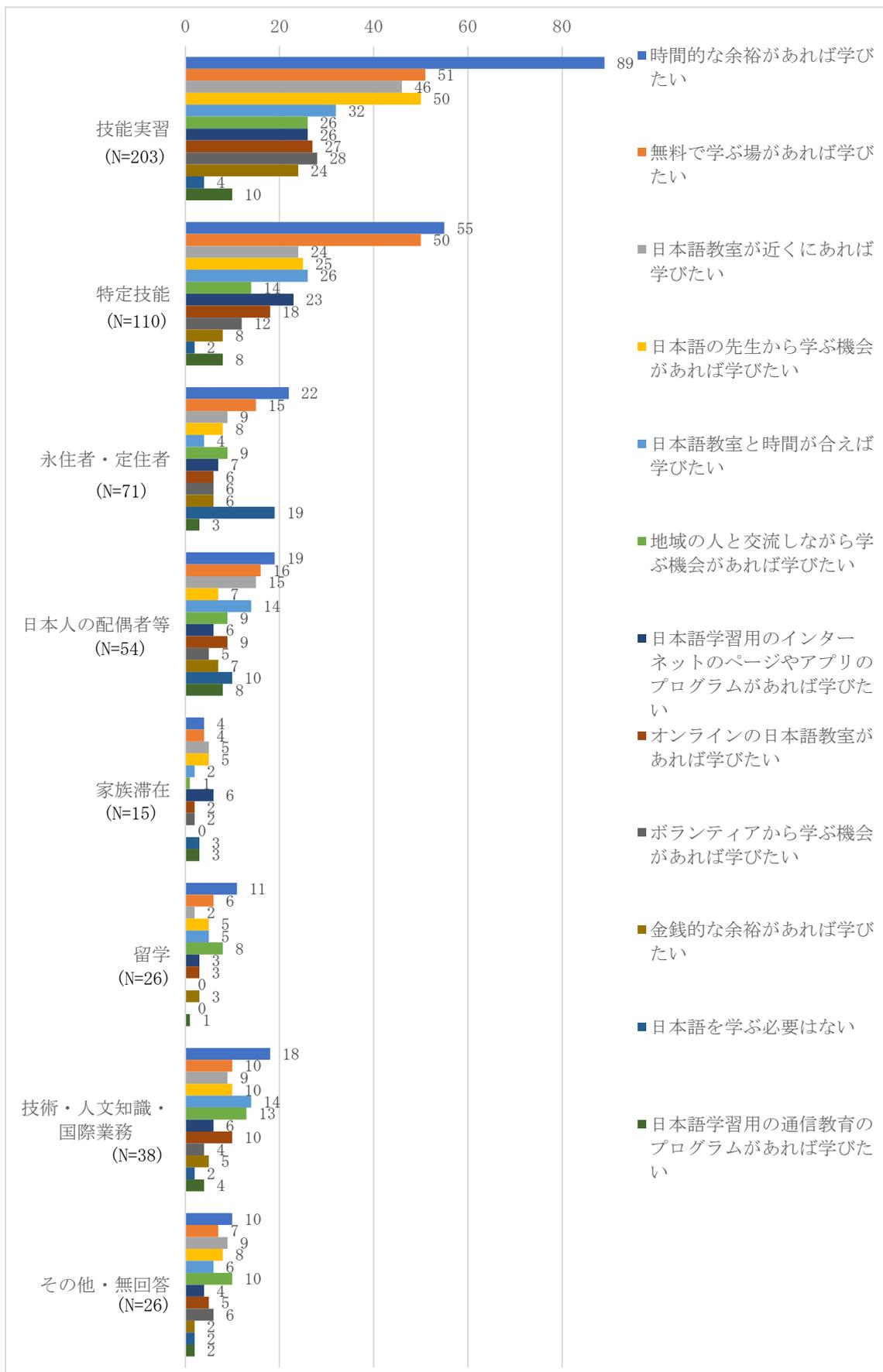
問6の「その他」自由記述	件数
大学で	13
学校で	6
日本語学校で	3
専門学校で	3
大学院で	2
アニメで	2
日本で育ち、学校教育を受けた	2
母国で学んでいた	2
独学で	2
歌で	1

問7 どのような環境があれば、日本語を学びたいですか（複数回答可）

「時間的な余裕があれば学びたい」（228件）が最も多く、次いで「無料で学ぶ場があれば学びたい」（159件）、「日本語教室が近くがあれば学びたい」（119件）となっている。

在留資格別の結果を比較すると、技能実習において、「日本語の先生から学ぶ機会があれば学びたい」と回答した人の割合が特に高いことが分かった。



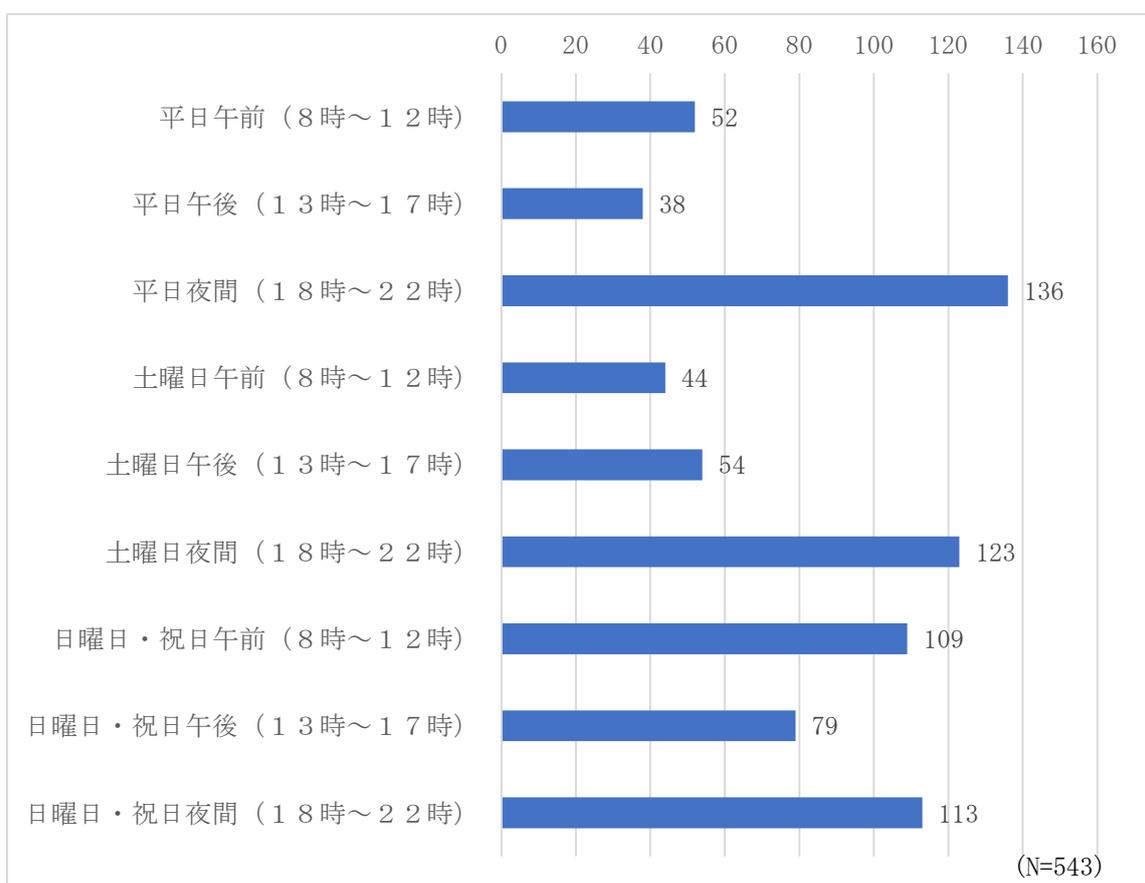


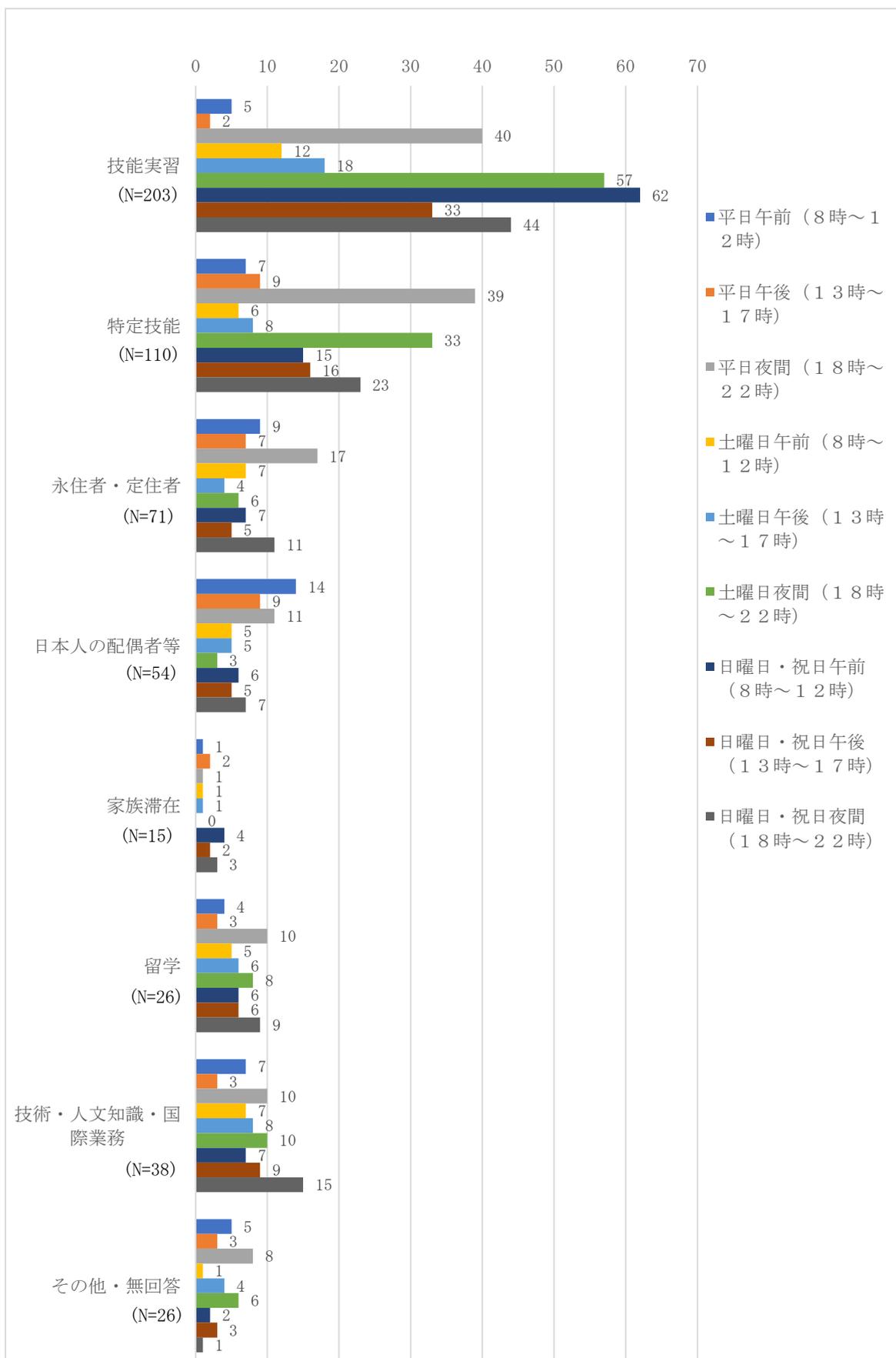
問8 日本語を学びたい時間を教えてください（複数回答可）

「平日夜間（18時～22時）」（136件）が最も多く、次いで「土曜日夜間（18時～22時）」（123件）、「日曜日・祝日夜間（18時～22時）」（113件）となっている。

在留資格別の結果を比較すると、技能実習や特定技能等、就労のために来日している方々を中心に、夜間の学習を希望する方が多いことが分かった。

一方で、永住者・定住者と日本人の配偶者等では平日の午前及び午後を希望する方の割合が比較的多く、現在実施している生活者向けのオンライン日本語講座の時間設定はニーズに即していることが分かった。



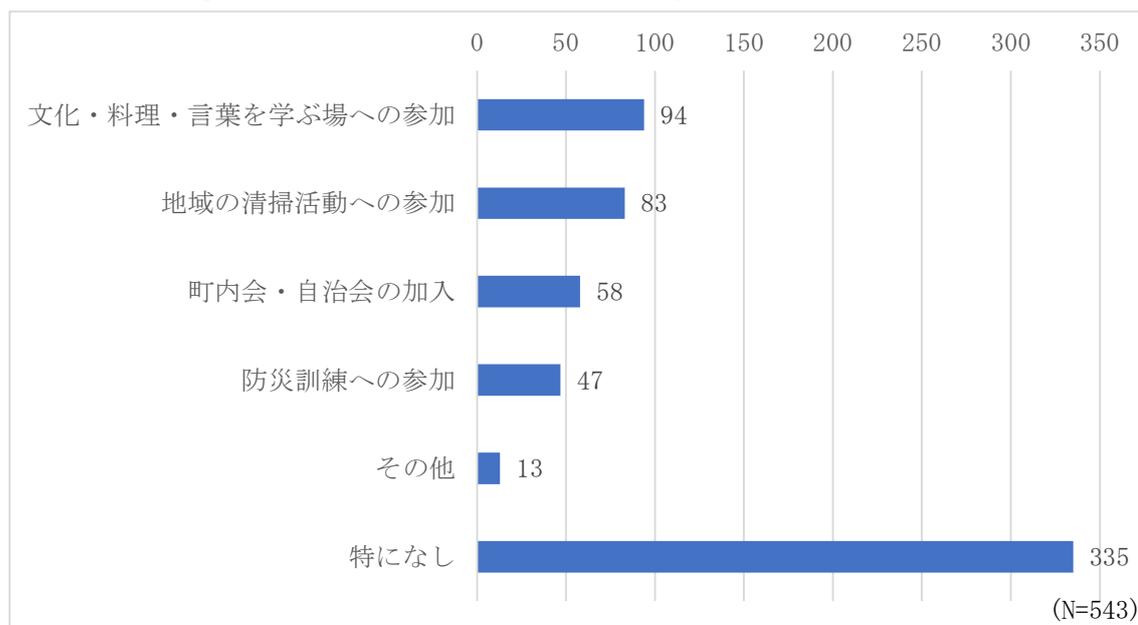


地域住民との交流について

問9 地域とどのような関わりをしているか（複数回答可）

「特になし」（335件）が最も多く、次いで「文化・料理・言葉を学ぶ場への参加」（94件）、「地域の清掃活動への参加」（83件）となっている。

また、「その他」自由記述には、下記の回答を得た。

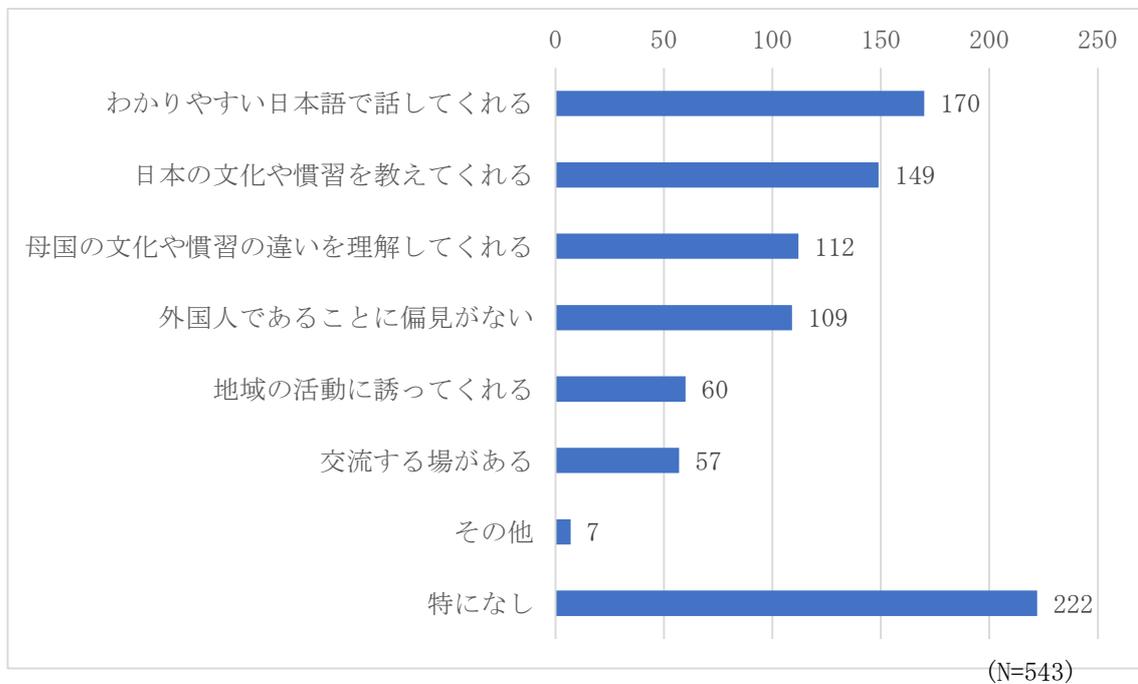


問9の「その他」自由記述	件数
友人になった	2
近所づきあいはある	1
交流センターの自主グループ	1
カフェのイングリッシュミーティング	1
ジム	1
教会	1
周りに地元住民がいない	1

問 10 地域住民との交流で、良かったと感じたこと（複数回答可）

「特になし」（222 件）が最も多く、次いで「わかりやすい日本語で話してくれる」（170 件）、「日本の文化や慣習を教えてくれる」（149 件）となっている。

また、「その他」自由記述には、下記の回答を得た。

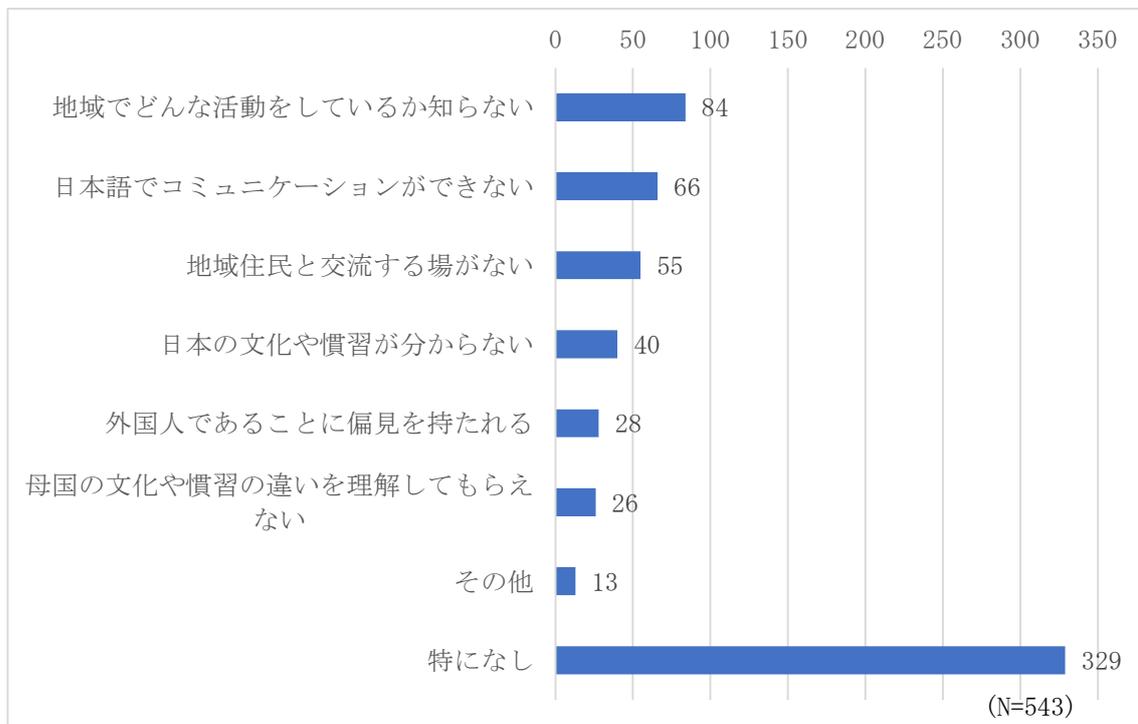


問 10 の「その他」自由記述	件数
英語に興味がある日本人は恐れずに外国人と話してくれる	1
料理の作り方を教わった	1

問 11 地域住民との交流で、困っていること（複数回答可）

「特になし」（329 件）が最も多く、次いで「地域でどんな活動をしているか知らない」（84 件）、「日本語でコミュニケーションができない」（66 件）となっている。

また、「その他」自由記述には、下記の回答を得た。



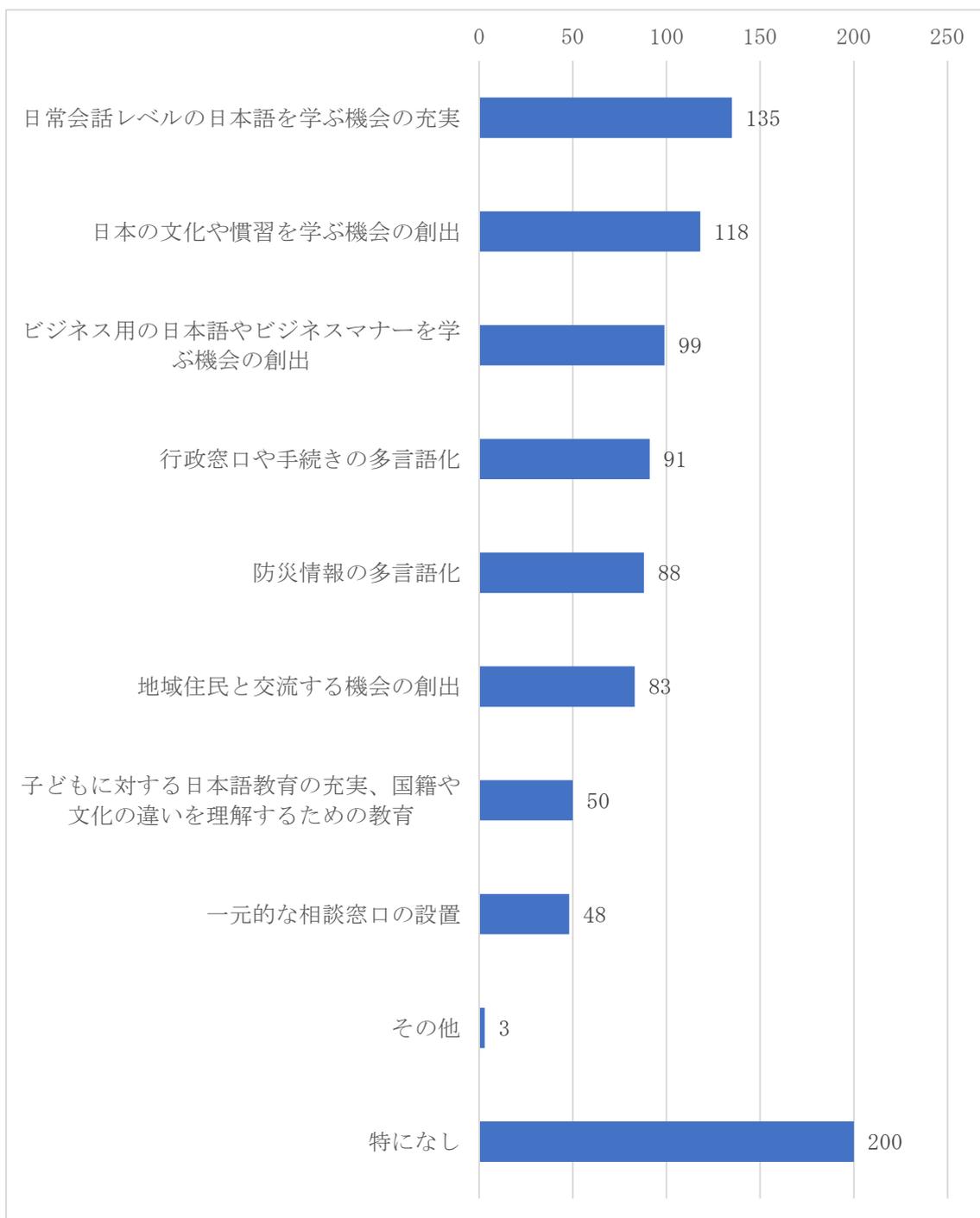
問 11 の「その他」自由記述	件数
そもそも交流できる機会があまりない	1
仕事の関係で時間がとれない	1
時間が合わない	1
必要だと思えない地域活動が煩わしい	1
参加費が高い	1
方言がわかりにくい	1

その他

問 12 行政（自治体）に求める支援はありますか（複数回答可）

「特になし」（200件）が最も多く、次いで「日常会話レベルの日本語を学ぶ機会の充実」（135件）、「日本の文化や慣習を学ぶ機会の創出」（118件）となっている。

なお、「その他」の自由記述は無回答だった。



(N=543)

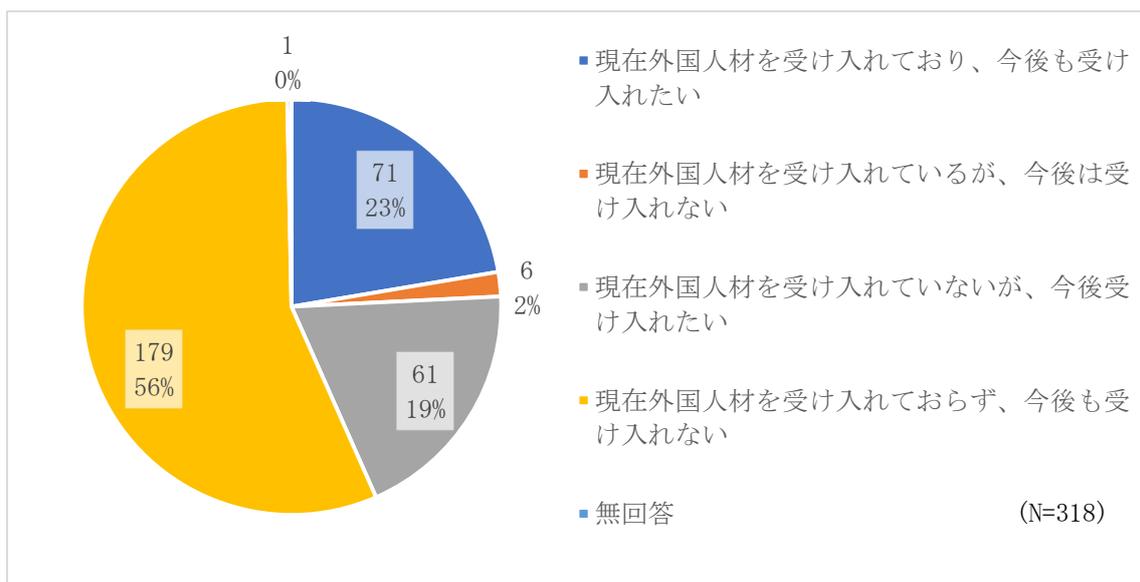
(2) 事業所

基本情報

問1 外国人材の受入れの状況と意向

「現在外国人材を受け入れておらず、今後も受け入れない」(179件)が最も多く、次いで「現在外国人材を受け入れており、今後も受け入れたい」(71件)となっている。

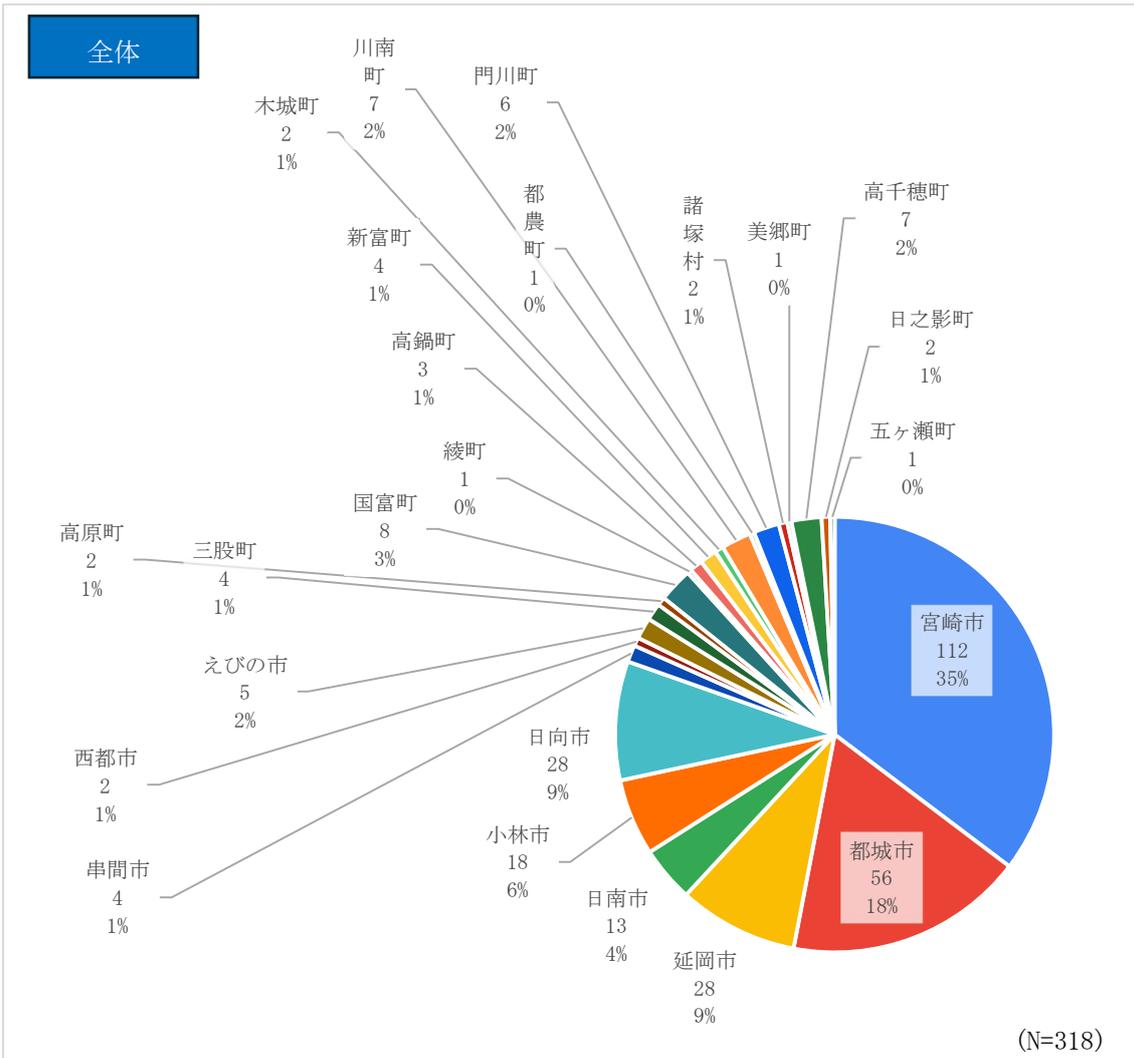
現在外国人材を受け入れている事業所は77件(25%)で、現在の受入の有無にかかわらず、今後受け入れたいと考える事業所は132件(42%)となっている。

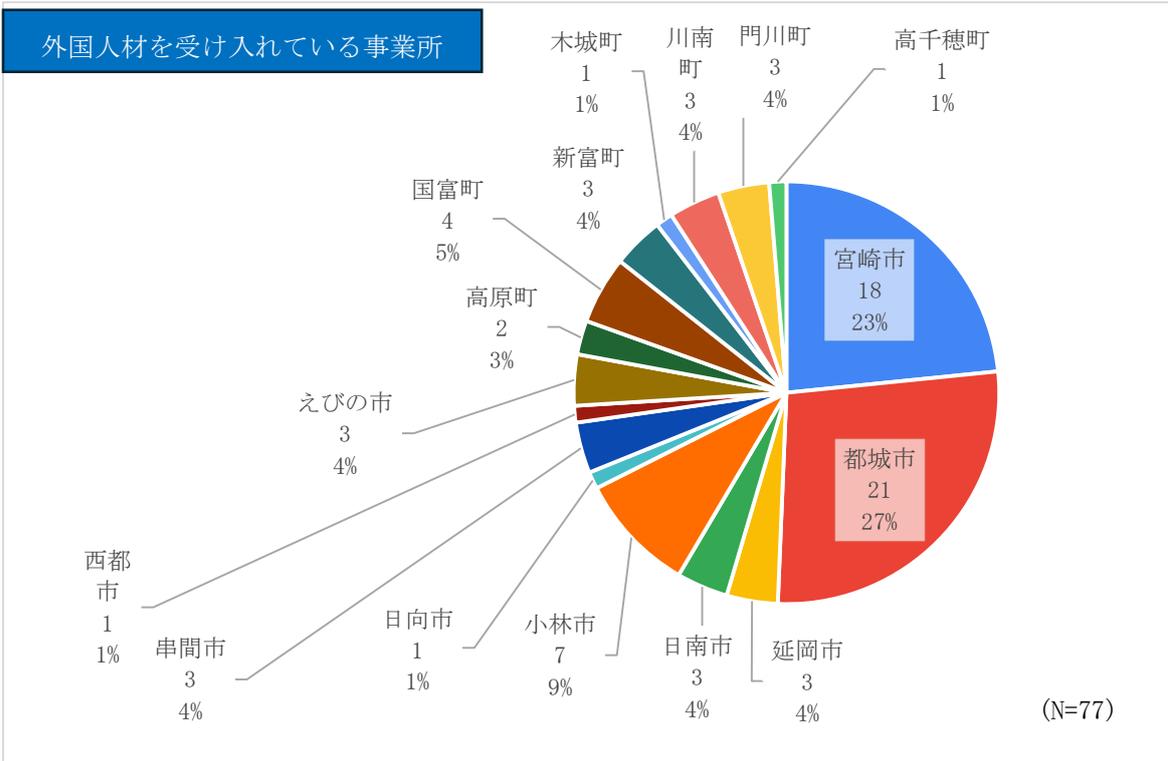


問2 所在する市町村

回答のあった事業所全体では、「宮崎市」(112件)が最も多く、次いで「都城市」(56件)となっている。

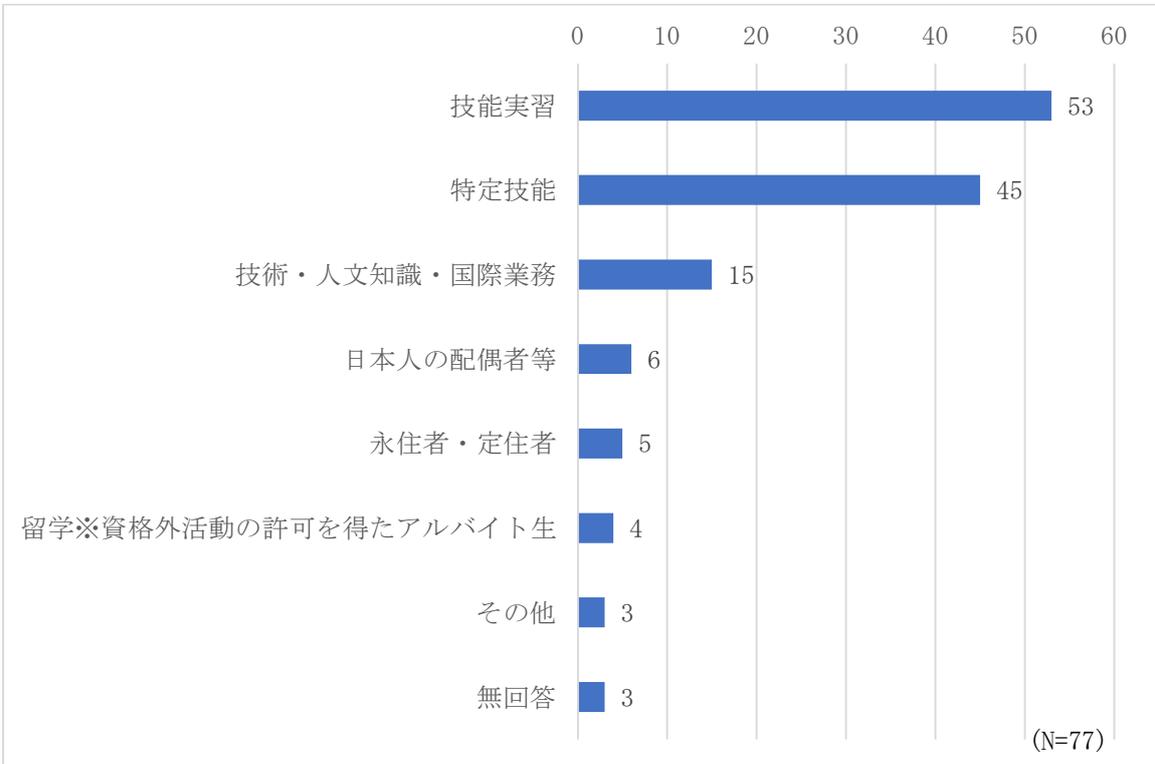
一方で、現在外国人材を受け入れている事業所では、「都城市」(21件)が最も多く、次いで宮崎市(18件)となっている。





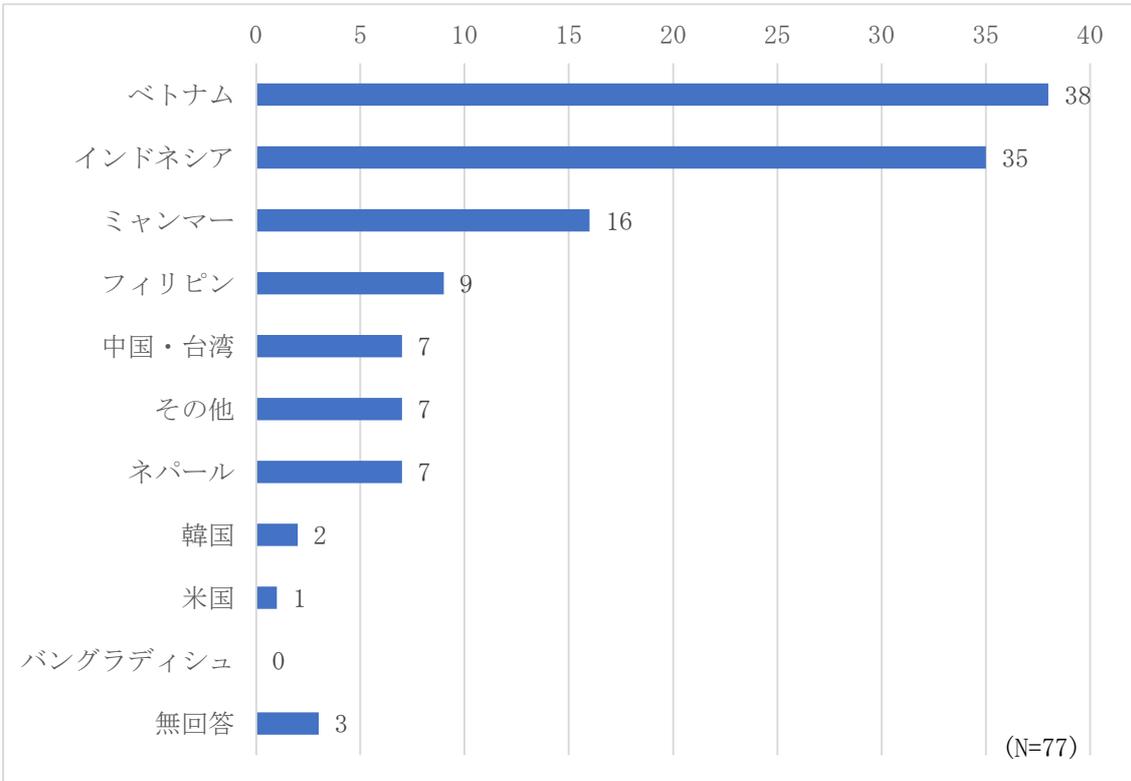
問3 現在受け入れている外国人材の在留資格は（複数回答可）

「技能実習」（53件）が最も多く、次いで「特定技能」（45件）となっている。



問4 現在受け入れている外国人材の国籍は（複数回答可）

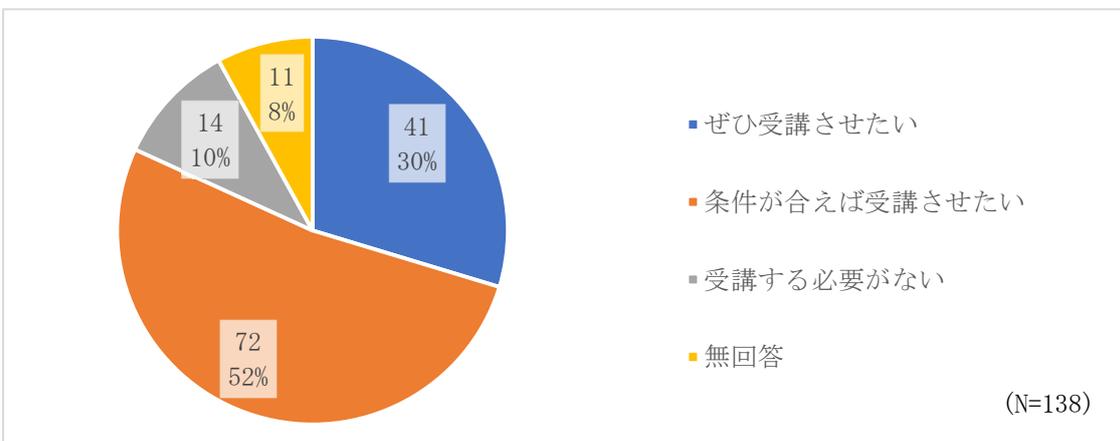
「ベトナム」(38件)が最も多く、次いで「インドネシア」(35件)となっている。



日本語について

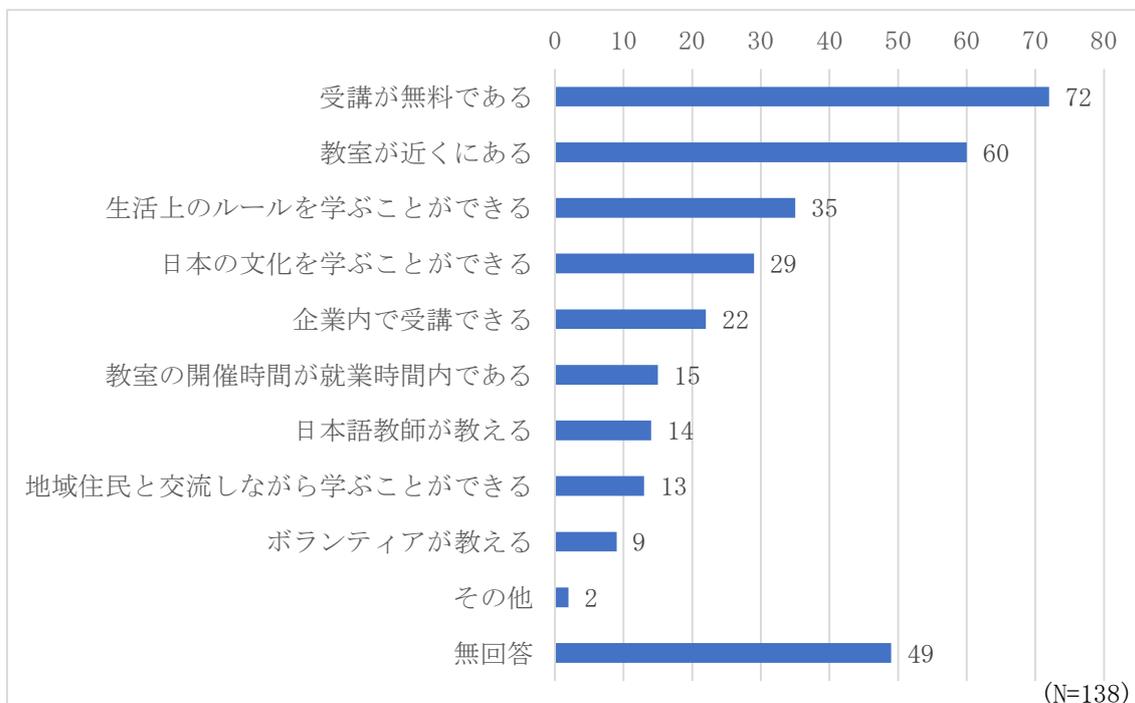
問5 市町村等が開催する日本語教室があれば、外国人材を受講させたいですか

現在外国人材を受け入れている事業所及び現在外国人材を受け入れていないが今後受け入れたいと考えている事業所から回答を得たところ、「条件が合えば受講させたい」(72件)が最も多く、次いで「ぜひ受講させたい」(41件)となっている。



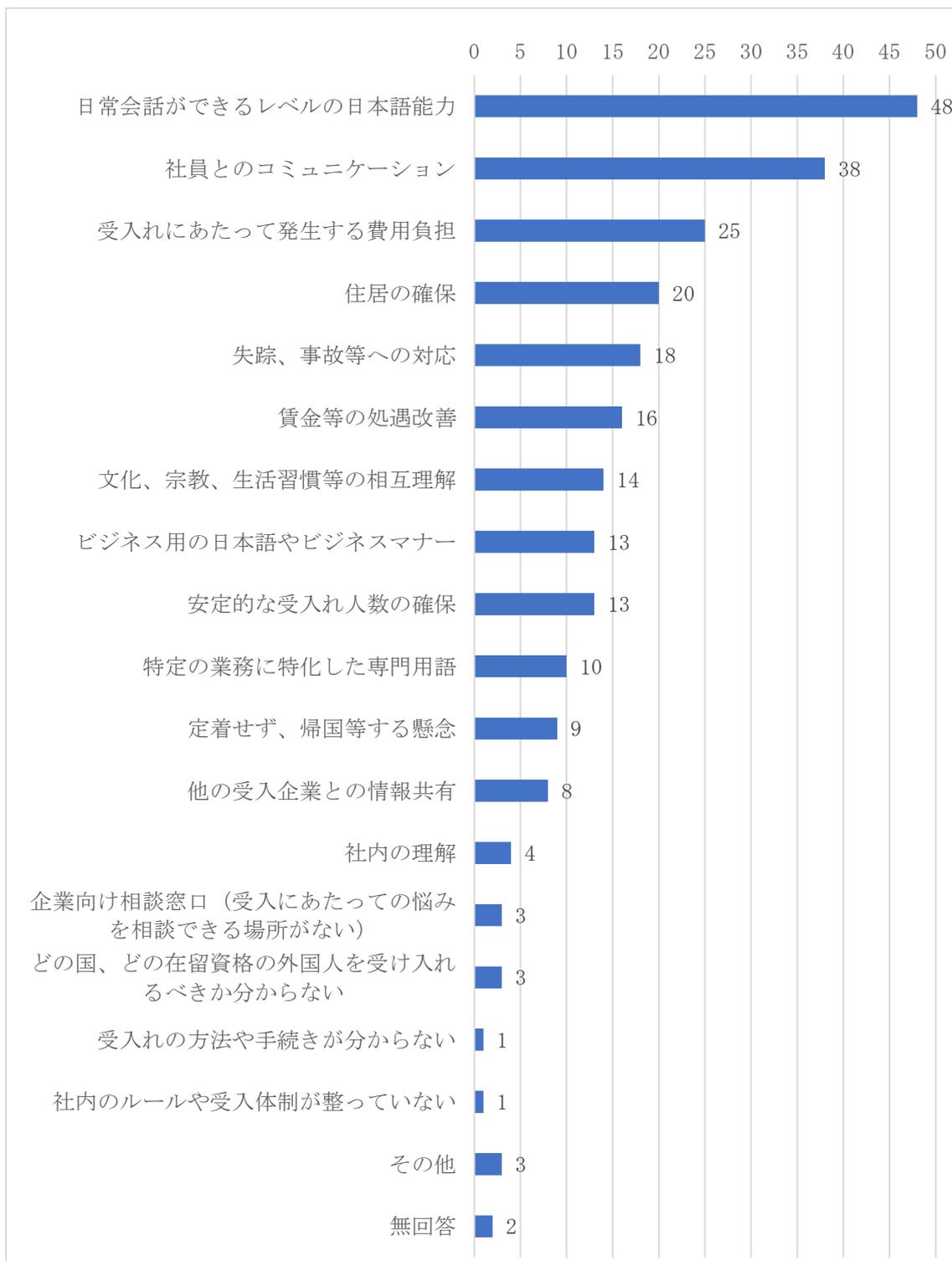
問6 どのような条件であれば日本語教室を受講させますか（複数回答可）

現在外国人材を受け入れている事業所及び現在外国人材を受け入れていないが今後受け入れたいと考えている事業所から回答を得たところ、「受講が無料である」（72件）が最も多く、次いで「教室が近くにある」（60件）となっている。



問7 外国人材を受け入れるにあたっての課題は（複数回答可）

現在外国人材を受け入れており、今後も受け入れたいと考えている事業者から回答を得たところ、「日常会話ができるレベルの日本語能力」（48件）が最も多く、次いで「社員とのコミュニケーション」となっている。



(N=71)

問8 外国人材に対する生活支援で困っていることや不安なことは何ですか（複数回答可）

現在外国人材を受け入れている事業所から回答を得たところ、「医療機関を受診する際の動向・通訳補助など」（32件）が最も多く、次いで「ごみ出しに関すること」（23件）となっている。

